

2024年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園小学校】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期方針・中期行動計画

- ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。
 - ミッションスクールとしての意義をより強く認識する。
 - ミッションスクールとしての特性を具現化する。
 - 保護者の理解度を向上させる。
- 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”（「何も恐れることはない」）を実感できるような教育環境を創造する。
 - 各学年にふさわしい安全教育・健康教育を実施する。
 - 危機管理研修を実施する。
 - 教育施設、教育設備、教育環境の充実を図る。
- 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。
 - アシステンツァを励行する。
 - サレジオ一貫教育の強化を図る。大阪星光学院及びカトリック系中学校との連携を深める。
 - 発達段階や個別能力に応じた教科研究を実施する。
- 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。
 - 校種間の連携を強化する。
 - 宗教的行事、文化的行事、体育的行事等の共同実施の方向性を探る。
 - 「城星オラトリオ」の活動内容の更なる内容充実に関して学校教育との連携を図る。
- 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。
 - 保護者と寄り添いながら共通理解を図る。
 - 小学校同窓会（FDDB）との連携を図る。
 - 地域社会の人々との関わりを深める。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

ア. 自己評価アンケート結果と分析	イ. 学校関係者評価委員会からの意見
<評価が相対的に高かった10項目> ○建学の精神・教育理念への共感 ○建学の精神・教育理念に沿った教育の実践 ○子どもの人間性や道徳心の育成 ○全体的な本校への満足 ○個人情報の適切な取扱い ○教育理念の分かりやすい提示 ○学校及び学年行事の適切性	学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会（保護者）・各学校種管理職・評議員（学識経験者）により構成されている。2024年度学校評価に関する検討は2025年4月17日（木）に行われた。 <意見まとめ> ・学校評価アンケートにおいて、避難訓練にかかる項目は91.1%と高い評価を受けている。

ア. 自己評価アンケート結果と分析(続き)	イ. 学校関係者評価委員会からの意見(続き)
○教職員による良識ある言動と挨拶の実践 ○教育目標及び内容の公開 ○施設設備の安全管理と清掃 (すべて満足度90%以上) <評価が相対的に低かった5項目> ○家庭学習の十分性 ○施設設備の機能の十分性 ○機関連携による関係づくり・問題解決 ○トラブルやいじめの防止及び早期発見 ○幼稚園及び高等学校との交流・連携 (満足度70~80%)	・授業中、あるいは授業終わりに教室から避難する、という訓練だけでなく、休み時間を起点にした訓練などの必要性もあるだろう。 ・現在進んでいる建物の解体、そして今後の新校舎建築に向けた安全確保が重要になってきている。学校環境は変化を伴うものであり、安全教育について引き続き努められたい。 ・アンケートへの回答の中に、講堂内で出っ張りのある箇所の安全性を指摘する声があった。各校種による管理は当然のことながら、学園全体の管理も意識的に行う必要があるだろう。 ・教員による評価が振るわなかったものとして、施設整備に関する項目が挙げられる。これはおそらく校舎等の老朽化やICT環境の未整備といった観点によるものと考えられる。Wi-fiの整備を急ぐ必要があったと認識している。
<アンケート総括> 【満足度に関する結果】 前年度と調査項目を変更しているものもあるため単純比較が難しいが、概ね前年度に上位となっていた項目が続けてランクインしている。そのような中、教育目標・内容の公開については前年度より順位及び評価を上げている。 下位項目については概ね前年度の下位項目と重なっているが、施設設備の機能については前年度よりも評価を大きく下げている。 【学校に期待することに関する結果】 学校に期待することの上位5項目は前年度と同じ項目が並んでいる。すべて6割を超える数値となっており、大きな期待が寄せられていることが分かる。学校に期待することの下位5項目も前年度と同じ項目が並んでいる。	・児童の感じ方と保護者の感じ方にはギャップがある可能性もあり、アンケート結果の改善に向けた活動は重要ではあるものの、より重視したいのは保護者と学園の相互理解である。小学校が努力し実践していることを保護者にもっと知ってもらうことが必要なのではないか。 ・建学の精神に沿った教育という観点から、確かにアンケートでも高い評価が得られているものの、時には言葉かけで柔和さを忘れてしまっている教員も見受けられる。今後に向け、研修の機会を設け、その機会を大切にできるような取り組みが求められる。 ・後援会ではいろいろ企画を考え実施もしているものの、現場教員になかなか来てもらえなかったのが残念だった。次年度以降はぜひとも連携の機会が増えればと願っている。 ・地域社会の人たちとのアシステンツァは少なかったと思う。教員が地域の方々と共に歩む姿勢を打ち出す必要がある。ドン・ボスコ子ども未来センターでサレジアン研修をしているがこれを地域に開放することを考えたい。 ・校内でも挨拶が不十分になっている例があるように感じられる。最低限、きちんと声を出して挨拶をすることを徹底されたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

※ 満足度は学校評価アンケートで「5:とても満足」「4:まあ満足」の回答割合を示している。

※ 「年度評価」の記載内容は学校評価アンケートの結果を分析したうえで、当該目標にかかる活動全般を評価したものである。満足度85%以上で○、同60%以上で△、それ未満で×の表記としている。

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	(A) ミッションスクールとしての意義をより強く認識する。	達成可能な個々の目標設定のもと、理想の児童像である「光の子」を育成するため、宗教研修を活性化し、カトリック教育に対する理解や教員同士の信頼関係の深化を図る。	無条件の愛情によるミッションスクールとしての存在意義の認識	学校は、建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている。(満足度95.3%)	○学年によっては、放課後の教室掃除を通して、学年の話題を共有できた。
	(B) ミッションスクールとしての特性を具現化する。	ドン・ボスコ、マリア・マザレロを初めとする諸聖人の生き方に倣い、「謙遜」と「柔和」に基づく教育活動を実践する。	「ファッチョイオ、ひと針ひと針に愛をこめて」の精神に支えられた、良心に基づいた意識の変化と行動の変容	学校は、建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている。(満足度95.3%)	○柔和を実践し、落ち着きの見られる学年があった。学級通信等でご家庭にもみ言葉を触れていただいた。
	(C) 保護者の理解度を向上させる。	保護者勉強会、ドン・ボスコ勉強会を実施し、ドン・ボスコ、マリア・マザレロが生きた時代の社会情勢や風土をもとに、その教育についての理解を深める。	カトリック精神、ドン・ボスコ、マリア・マザレロに対する保護者の意識高揚と教育共同体としての行動の変化	学校は、保護者に対して建学の精神および教育理念をわかりやすく示している。(満足度93.1%)	○宗教行事等で保護者に来ていただき、祈りの時を共に持てた。
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	(A) 各学年にふさわしい安全教育・健康教育を実施する。	学年別各種教室を実施する。コロナ感染症等予防教育を中心に安全で安心な登下校指導に重点を置く。年3回以上の光の子アンケートの実施、教員・保護者による通学路巡回指導の実施、避難訓練の実施を計画する。	児童及び教員の安心・安全な生活に対する意識高揚、具体的な行動の確認	学校は、避難訓練、感染防止対策の指導、下校指導等、適切な安全・健康教育を十分実施している。(満足度91.1%)	△寄り道等の問題があった。また、公共交通機関使用についてマナー面でのクレームが見られた。
				学校は、教職員同士やドン・ボスコ子ども未来センター(教育相談室)と連携しながら、子どもたちのよりよい関係づくりや問題解決に努めている。(満足度78.2%)	
				学校の施設・設備は、安全管理と清掃が行き届いている。(満足度91.6%)	

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	(B)危機管理研修を実施する。	心肺蘇生法研修を実施する。新1年生対象に災害時児童引渡し訓練を実施する。また、防災、防犯訓練を実施する。	週1回の校舎内運動場の安全点検及びけが0デー(毎週金曜日)の意識化	学校の施設・設備は、安全管理と清掃が行き届いている。(満足度91.6%)	○概ね問題ない。念のため、緊急放送が学園内すべてに流れているかのチェックを行う必要がある。
	(C)教育施設、教育設備、教育環境の充実を図る。	放送設備、Wifi環境の充実を図り、児童の教育環境を向上させ教育内容の充実を図る。	アナログ教育を中心としたデジタル機器活用による学習の深化	学校の施設・設備は、学習環境として十分な機能を備えている。(満足度79.7%)	△来年度に向けて、Wifi環境の安定が求められる。一部設備での安全確認を行いたい。
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	(A)アシステンツァを励行する。	「いつもどこでも子どもと共に」を実践する。児童が愛されていると感じる指導の在り方、言葉のかけ方を考える。	優しさと自由に根ざした教育共同体としての信頼関係の確立	教職員は、授業や休み時間、あらゆる場面での指導や声かけを通して、子どもたちに寄り添い、「アシステンツァ」の実践に努めている。(満足度90.4%)	○運動場、教室で子ども達と過ごすことができていた。共にいる事の定義を考えていきたい。
	(B)サレジオ一貫教育の強化を図る。大阪星光学院及びカトリック系中学校との連携を深める。	合同研修会、ほしゼミ、チャレンジゼミ、特別選抜制度を継続維持し実施する。城星特別学校説明会への参加を計画する。	サレジオ一貫教育の推進と進路指導の充実	学校は、サレジオ一貫教育強化に向け、チャレンジゼミ実施はじめ、大阪星光学院との連携を深めている。(満足度85.5%)	○他校との連携が進んでいる。各学校の説明会等前向きに実施できている。
	(C)発達段階や個別能力に応じた教科研究を実施する。	児童・保護者のニーズに応えるべく、学年や教科主体での研究活動を強化するとともに、主体的に対話的な学習について研鑽を積む。	自主自律の学習意欲の向上	-	○定期的に学年団で教材研究を行えた。学習の遅れのある児童への学習サポートができた。
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	(A)校種間の連携を強化する。	授業参観や研究授業、校種間教員派遣等を通して、幼・小・高の教員の連携を強化する。	幼小高教員の連携強化	学校は、幼、小、高の交流や連携を図ろうと努めている。(満足度70.2%)	△各部会でそれぞれ良い連携が見られたが、全体への浸透に若干課題がある。
	(B)宗教的行事、文化的行事、体育的行事等の共同実施の方向性を探る。	カトリックミッションスクールの総合学園としての在り方を模索し、多方面からの保護者の学園理解を図る。	総合学園としての連携強化	保護者として、建学の精神および教育理念に共感している。(満足度96.1%)	○ミサ等全校種で動いたところも見られたが、他でも全体で動けるとなおい。
	(C)「城星オラトリオ」の活動内容の更なる内容充実に関して学校教育との連携を図る。	ドン・ボスコの予防教育法に根差した、かつ保護者のニーズに合致した学童保育の実施に協力する。	サレジオ家族の一員としての意識強化	子どもをこの学校に通わせて満足している。(満足度94.6%)	○連絡を密に取り合っている。活動を増やすため、今後も提案していきたい。

中期的 目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人のびと・地域社会の人のびとの「アシステンツァ」を深める。	(A) 保護者と寄り添いながら共通理解を図る。	児童の発達段階に応じて話題を共有し合い、成長を確かめ合う機会をより多く持つ。適時Zoom配信による学級懇談会や学年懇談会の開催を考える。	家族的な雰囲気、教育共同体の一員としての自覚の促進	学校は、保護者に対して、子どもの学習状況や友達関係、学校生活に関する情報を適時適切に伝えている。 (満足度83.4%) 教職員は、保護者の相談に適切に対応している。 (満足度90.1%)	△伝達法は様々だが、細かく情報を共有できていた。今後に向けよりよい方法を模索していく。
	(B) 小学校同窓会（FDDB）との連携を図る。	同窓会会員の結束を図るとともに、城星フェスタや学校行事、日常生活の必要に応じて教育活動に理解、協力を願う。	城星ファミリーとしての同窓会との連携	学校は、同窓会・同窓生や後援会との連携を図ろうと努めている。 (満足度80.6%)	△職員の同窓生と共に、フェスタで一緒に活動できたが、同窓会報などでつながれるとよい。
	(C) 地域社会の人々との関わりを深める。	児童会活動等を中心に登下校や利用交通機関等でお世話になっている方々に挨拶や感謝の気持ちを伝える活動に取り組む。	自主的かつ積極的参加によるサレジオ精神の実践化	学校は、子どもたちの基本的な生活習慣の定着と自立を目指して、適切な生活指導を行っている。 (満足度90.4%) 子どもたちは、礼儀やマナー、また、基本的な生活習慣を身に付けている。 (満足度85.4%)	○見守り等の御礼のお手紙をお渡ししたり、様々な教科を通してつながれるとよい。